



細部まできれいに拡大された曼荼羅の画像に驚きの声を上げる来館者(奈良市の奈良国立博物館で)。＝川崎公太撮影

極楽浄土ズーム!

當麻寺展

奈良国立博物館(奈良市)で開催中の特別展「當麻寺―極楽浄土へのあこがれ―」(読売新聞社など主催)で、国宝・綴織當麻曼荼羅(奈良時代、約4.8四方)と、その後に模写された二つの曼荼羅のデジタル画像を、パソコンで簡単に見比べられるコーナーが来館者に好評だ。当初の2台から4台に増やしており、同館は「細かな部分に目を向け、曼荼羅の極楽浄土の世界を堪能してほしい」としている。

国宝曼荼羅と模写PCで比較

プログラムは、同館と国立情報学研究所連想情報学研究開発センター(東京)が共同制作。今回出展された国宝と室町時代の重要文化財「當麻曼荼羅(文筆本)」(約3.8四方、21日から再展示)の写真に加え、現在、葛城市の當麻寺本堂に掲げられている江戸時代の「真草本」(約3.8四方)については30年前に同館で展示された際に撮影した写真を基にした。

操作はマウスを使うのみで、画面に映る曼荼羅の見たい部分をクリックすると拡大でき、他の二つの同じ部分との比較も可能。来館者は、国宝では見えにくくなった阿彌陀如来の輪郭や数多く描かれた菩薩の表情、色の違いなどを時代を追って見ることができると話す。

奈良市の主婦森和子さん(61)は「国宝が忠実に模写されていることが一目で分かった」と感心。同館の担当者も「国宝と文筆本は展示期間が異なり、実物を並べて見られないので、このコーナーを設けた。忠実に再現された様子から、曼荼羅への信仰の深さを感じてもらえれば」と話している。

THE YOMIURI SHIMBUN

讀賣新聞